

私 の 工 夫

つながりから広がる 委員会活動の工夫

赤磐市立高陽中学校

養護教諭

新田

恵子



1 はじめに

私の保健室経営の中心には「つながる・つなぐ」がある。リアルな世界で信頼できる人とのつながりを広げることが、生徒にとって大きな価値があることだと考えている。

今回は、生徒委員会活動について、学校薬剤師やスクールカウンセラー（以下SC）とのつながりを中心に紹介する。

2 生徒委員会活動で めざすもの

保健室では体や心の状態が万全ではない生徒と過ごすことが多い。そんな私にとって、生徒委員会活



SCへのインタビューの様子

動は、たくさんの生徒との関わりが広がり、はつらつとしたパワーを感じることができるようになった。本校の保健美化委員会は、「生徒の健康と安全を守る」をめざして活動している。そこに関わる養護教諭の私がめざしているの

は「仲間づくり、知識を広げ役割を学ぶ、自信をつける」の三点である。様々な活動において、全校生徒への啓発には、生徒からの発信が効果的である。しかし、その経験も少なく、自信がない生徒が多い。そのため、まずは自分たちが学び、根拠をもって人に伝える力をつけさせたいと考えた。

そこで、委員の意欲と自信の向上を目的に、専門的な人に学び、体験する活動を計画的・継続的に設定した。また、自分の言葉で伝える機会を増やし、人と関わる楽しさを感じさせるため、学年ごとのグループで活動することにした。

3 実際の取組

(1) 学校薬剤師と環境検査を実施

委員会活動の時間に学校薬剤師に来ていただき、教室の空気、照度、手洗い場の水質検査を行った。検査の前には学校環境衛生基準をみて、検査の目的や基準について確認し、グループで順番に検査を

行った。

教室の空気検査では、「対角線の窓を開けると二酸化炭素濃度が下がる」という換気の効果と、どんな換気がより効果的なのかを確かめることができた。「寒い中、窓を開けてもすぐに閉められる」と換気の難しさを訴えていた委員も「換気はやっぱり大切」と感想に書いていた。照度に関しても、「教室の明るさは場所によって違う」「カーテンをずっとしていると暗い」などの気づきがあった。検査結果は、感染症対策啓発動画



学校薬剤師との環境検査の様子

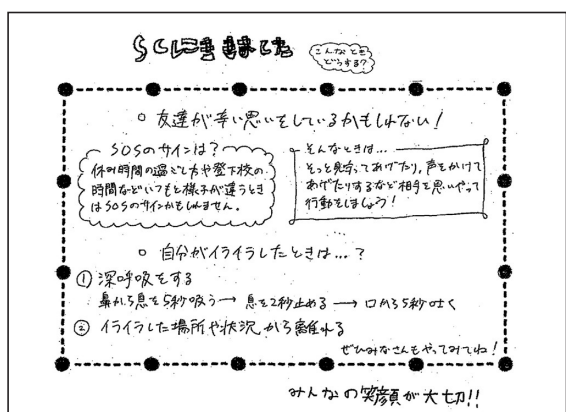
を作成しクラスで視聴してもらった。

生徒にとっては、環境検査をしていること、法律で定められた基準があること、学校には専門の薬剤師がいることなど新たな発見もあった。

(2) S.C.と心の健康について考える

心の健康づくりは、委員長がやりたかった活動の一つである。

本校には二名のS.C.が配置されている。一つ目の取組として、S.C.へのインタビューを行った。「イ



生徒作成の保健だより

ライラしたとき、集中できない時はどうしたらよいか」「友だちが悩んでいる時のサインとその友だちをどう支えたらよいか」など、自分たちで考えた質問をした。また、自分自身が悩んだとき、日常の中で各自が試していることも出し合いながら、悩みなどの解決にむけてS.C.と話し合いをした。そして、その内容を保健だよりで紹介した。

二つ目の取組では、委員がS.C.に呼吸法を教わり動画を作成した。そして、教室で視聴しながら生徒みんなで呼吸法を実践した。「イライラしたとき」「試験前でドキドキしているとき」など、落ち着きたいときに各自で実践してもらうことがねらいである。三年生の入試前に二種類の呼吸法を紹介した。

(3) 活動のまとめ

今回の取組では、学校薬剤師やS.C.とのつながりから専門家に教わり、確かめ、発信する活動の中で、委員の「やってみよう」が形

になり、「もつとやってみよう」という感想を聞くことができた。また、委員自身がインタビューや呼吸法をする中で、表情が柔らかなったり、前向きな発言が増えたりした。このことから自分の仕事に自信ができてきたことがうかがえた。さらに委員がS.C.のカウンセリングを利用したケースもあり、つながりの広がりもあった。

呼吸法は単発の実践のため、全校生徒に対しては十分な啓発にはならなかったかもしれない。しかし、S.C.の存在を周知することに役立ったり、心の健康について考える機会となったりした。

4 おわりに

自分自身については、学習に関わることが少なく、仲間づくりや学びに関することへの指導力のなさを感じている。一方で、生徒と同じ視点で一緒に活動し、新しい発見をしたり分かり合えたりして楽しいと感じる活動は、私にとっ

てもやりがいがある。

短時間でねらいに合った活動を行うためには事前の打ち合わせが必要であるが、いつでも、何度でも快く引き受けて、前向きに協力してくださる学校薬剤師やS.C.、教職員がいてこそその取組だと感じている。今後多くさんの人との温かいつながりに感謝し、取組を継続するとともに「やってみよう」と思える委員会活動となるよう工夫していきたい。そのためにも自分自身の力量を高めていきたい。



呼吸法実践の様子

私の工夫

生徒の主体性を育てる

ペアでの思考を

軸とした学び

岡山県立岡山南高等学校

指導教諭

中本 大輔



1 はじめに

私は、長年にわたり、生徒の学習状況や教科へのイメージを把握するために、生徒に授業アンケートやヒアリングをしてきました。その結果から、地歴・公民科の授業は、受け身になることが多く、考える機会が少ないことが課題だと感じるようになりました。受け身のイメージが強いと生徒の主体性を育てることは難しいと判断し、授業で生徒の活動を活発にする仕組みを作ることで主体性を伸ばしたいと考えるようになりました。生徒の活発な活動を促進するには、それまでの説明中心の授業から活動型の授業に変更していく



蒸気機関の実験の様子

必要がありました。また、生徒の主体性を育てるには、授業で円滑な人間関係づくりを行うとともに、授業以外の例えば、学級づくりにおいても改善を図る必要があります。

した。ここでは特に「授業づくり」を中心に紹介します。

2 私の実践

① 思考させるための発問

まず、私が着手したのは、発問の改善でした。私は、一問一答のような発問ではなく、毎時間3〜4問程度の思考させるための発問（以下、思考発問）を準備して、生徒が活発に思考できる仕組みを授業に取り入れることにしました。論理的な思考力を育成するために、資料を読み解く思考発問や、時代背景を読み取らせるなどのじっくりと時間をかけて考えさせる思考発問が必要になります。例えば、大航海時代の学習では、『大航海時代叢書（第1）航海の記録』（岩波書店、1965年）からマゼランの航海記録を抜粋し、その記録から航海の状況を把握させる思考発問を設定します。しかし、こうした思考発問は生徒全員が解けるわけではありません。比

較的簡単に答えが導き出せる発問時には誰もが答えられる発問などを意図的に入れることで、苦手な生徒が参加しやすいようにしています。



ペアでの思考①

② ペアでの思考

次に取り組んだのは、「誰とどのように思考発問の「回答」を考えさせるべきか」という課題でした。結論から言えば、思考発問については必ず2人で考えさせ、回答用紙に回答する方法にしました。そのため、授業の始めに隣の生徒



ペアでの思考②

同士で机を合わせてペアを作らせます。1グループ4〜6人で協同させたこともありましたが、最終的には2人としました。これは一対一が生徒にとって発言する機会が多くなると考えたからです。司会や発表などの役割分担をする方法もありますが、3〜4問の思考発問をこなしていくには時間的制約があり、生徒がより主体的になるためには一対一が最も効率的であると考えたからです。ペアは制限時間内に思考発問の回答を考え、お互いの意見を交わします。意見

をまとめたら、回答用紙に答えを記し、提出します。提出された回答用紙を実物投影機で映し出し、教師がその回答を使って解説や評価などをしながら授業の流れをつくり、次の話題に進めていきます。

③回答しやすい土壌づくり

私は授業で生徒に挙手を求めないようになっています。生徒の主体性を育てるには挙手が良い場合もあります。代わりには回答用紙を通して全ペアに回答を求めます。これなら挙手が苦手な生徒でも、回答する機会が確保できると考えたからです。提出された回答用紙は時間の許す限り、実物投影機でスクリーンに映し出し、全員で確認します。回答用紙を確認しながら「この答えはかなり高度な答えだね」「大正解!」といった言葉を投げかけます。また、間違っているでも「おしい。でも本当に正解に近い」「この視点は先生も気づかなかつたよ」などなるべく指摘しません。こうすることで答えに



回答の確認の様子

自信がない生徒でも挑戦しやすい土壌を作っていきます。また、この方法であれば1つの発問で、複数の生徒とやりとりできます。状況をみて、「この回答を書いたペアは手を挙げて」と指示し、手を挙げさせることもあります。恥ずかしそうに挙げるペアもありますが、みんなの前で認められることで次の回答への意欲につながると考えています。

3 おわりに

これらの授業づくりのヒントは、小学校の授業でした。校種は異なりますが、発問や他者との活動などは非常に参考になりました。また、授業づくりと並行して行ったのは学級づくりです。学級づくりも小・中学校の班活動を参考にし、「クラスのリーダーを育てる」及び「クラスを生徒全員にとって居心地の良い場所にする」ことを目的として始めました。この活動を通して、円滑な人間関係を育むとともに、誰とでも協力して課題の解決方法を考えられる姿勢が育ち、結果として授業で生徒の主体性が発揮されたと感じています。

私は、授業づくりと学級づくりは表裏一体で、相乗効果でよりよい授業が構築できると考えています。現在、歴史の授業では歴史上の人物の立場で物事やセリフを考えさせるなど、多角的に物事を観察する方法に挑戦しています。